

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒755-0001
 住 所 山口県宇部市大字沖宇部5253番地
 氏 名 セントラル硝子株式会社 印
 代表取締役社長執行役員 皿澤 修一
 (代理人) 川崎工場長 岡野 雅志
 (法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	セントラル硝子株式会社		
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市川崎区浮島町10番2号		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者(任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	化学品の製造		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	9,000 k l	
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数	台	
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量	t-CO ₂	
連絡先	担当部署	担当部署名	工務課
		所在地	川崎市川崎区浮島町10番2号
		電話番号	044-266-5537
		FAX番号	044-277-0079
		メールアドレス	

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	平成22年度 ~ 平成24年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号及び第3号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	主に以下の措置により、排出量の削減を図る。 ・主要設備の運転管理 ・生産設備のエネルギー管理の充実 詳細は、指針様式第1号（第4面）のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	なし
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	・環境教育の実施 詳細は、指針様式第1号（第6面）のとおり
備 考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

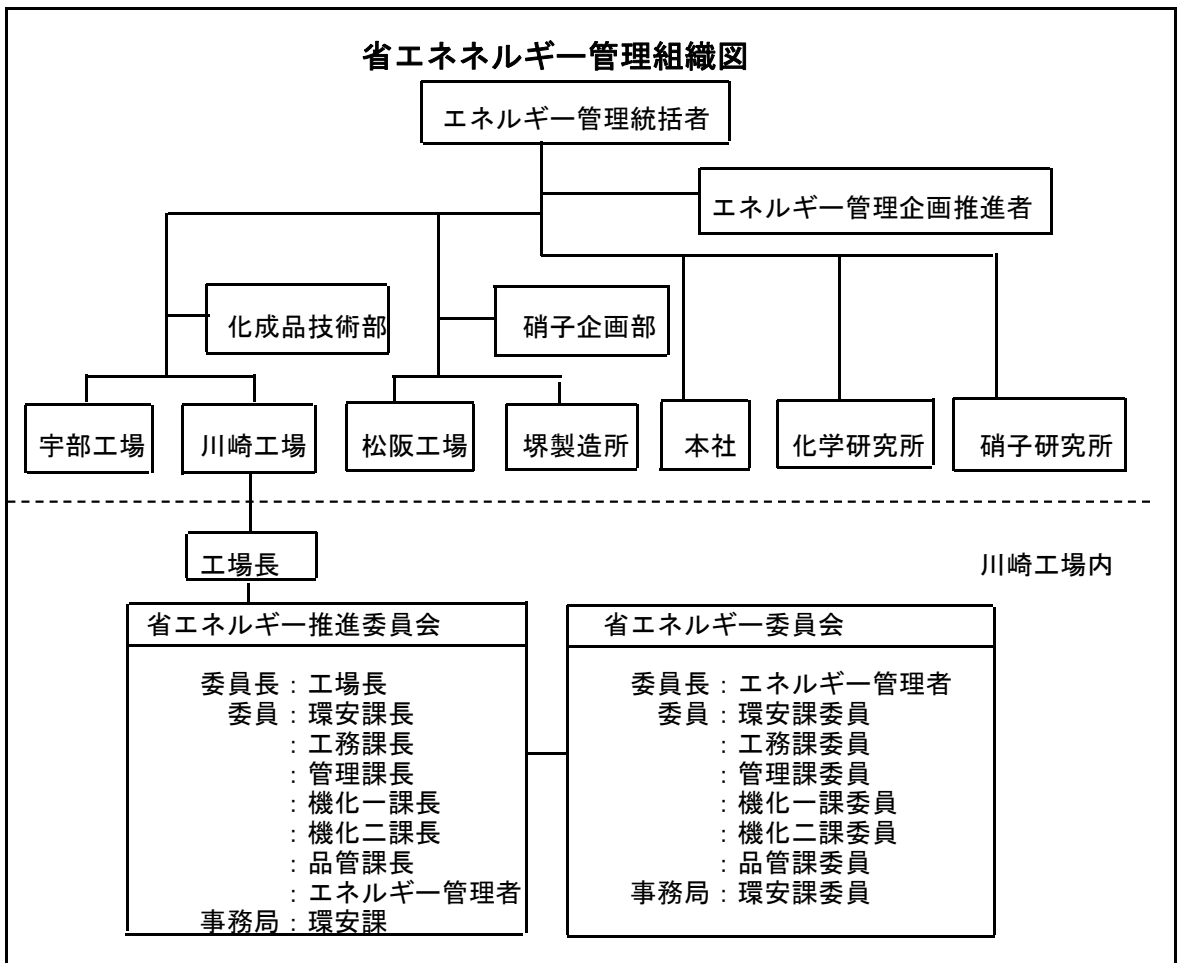
1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

1. 事業者全体基本方針
 温室効果ガスの排出の量については、当社では1990年基準で2010年にCO₂排出量を10%削減する目標を掲げている。
 2008年度は前年比で約5%削減した。1990年比では既に10%削減目標を達成している。
 特に、2008年10月から政府の排出量取引試行制度に参加し、地球温暖化防止のために積極的に取り組んでいる。今後も一層の省エネルギーに努め、さらなる温室効果ガスの排出の量の削減に努力する。

2. 市内事業所の基本方針
ISO14001認証取得
 取得日 : 2007年 5月28日
 活動範囲 : 製品の製造—HFC-245fa、HFIP、55%弗酸、塩酸、レジスト樹脂・及びレジスト樹脂原料、フッ素含有化合物(フッ素化ガス製品、電池電解液等)
 製品の貯蔵—無機製品

- ・ ISO14001規格に準拠して構築した環境マネジメントシステムに基づき、CO₂削減活動を推進し、継続的改善を図る。
- ・ 製品の製造等に伴って発生するCO₂を低減するため、工程の改善、効率の改善等を図る。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等（第1号、第2号、第4号該当者等）

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量

ア 基準排出量と目標排出量

基準年度	平成21年度	目標年度	平成24年度
基準排出量	(実) 17,226 (調) 15,351 t-CO ₂	目標排出量	(実) 22,464 t-CO ₂
削減率	(実) -30.4 %	削減量	(実) -5,238 t-CO ₂

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等

原単位の活動量	生産数量	単位	t-CO ₂ /t
基準年度の値	5.611	目標年度の値	3.948
削減率	29.6 %		
延床面積、生産数量以外の原単位を使用した場合の理由			

ウ 目標設定に関する考え方

本事業所では、生産数量が、基準年度(平成21年度)から、目標年度(平成24年度)までの間に大幅に増加することが見込まれている。

そこで、目標年度の目標排出量原単位の値は、目標年度(平成24年度)までに、“現状維持の削減対策を実施する”と仮定した場合の排出量原単位(3.988(t-CO₂/t))に対し、“現状維持の削減対策に加え、計画書の削減対策を実施する”ことで1%以上の削減をすることとして設定した。

また、計画期間の初年度にKF-5^oプラントの塔(T-1711)の蒸気使用量について、省エネ運転条件を検討し、現状使用量に対し20%削減する計画である。また、設備の起動時間の短縮や、異なるプラント間において冷却水を共有化して使用することなどを随時実施することにより、蒸気使用量や電力量の低減を図る。

これら生産設備の操業状況の変化に応じたエネルギー管理の充実を軸に、主要設備の効率運転、を実施することにより、目標削減量の達成を図る。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）

--

5 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減のための措置の内容

<p>事業所等に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○推進体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・本社と全国の他事業所間の情報交換を行い、推進体制の整備を行う。 ○主要設備の運転管理の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・圧縮機、冷凍機などの運転記録を見直し、記録管理できていない項目を把握する。これに基づき、計器の設置、操業状況におけ機器の適正条件の見直し、機器の停止可能の有無などについて検討、改善を図る。 ○生産設備のエネルギー管理の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・KF-5 プラントにおいて設備の起動時間の短縮を行うことにより、蒸気、電力のエネルギー消費量の低減を実施する。 ・KF-3 プラントとKF-5 プラントにおいて、冷却水を共有化して操業することにより、冷凍機、ポンプ等の電力量の低減を実施する。 ・KF-5 プラントの塔(T-1711)の蒸気使用量について、省エネ運転を検討、実施し、蒸気使用量を 20%削減する。 ○新設、更新等における措置 <ul style="list-style-type: none"> ・新設電解設備にカスケード制御を採用し、負荷変動に対して、稼動状態を調整しやすい電動力応用設備を構成する。 ・受変電設備の配置、容量などの仕様を検討し、適正化及び高効率機器の導入を実施する。 ○建屋の断熱性向上 <ul style="list-style-type: none"> ・建屋の窓にカーテンを取り付け、断熱性を向上させる。 ○照明設備の運用管理 <ul style="list-style-type: none"> ・照度を測定し、不要照明の取外しを行う。また、小區画毎のスイッチの設置及びランプの交換の際に省エネ型への変更を行う。 ○変圧器の適正管理、単相負荷の管理 <ul style="list-style-type: none"> ・VC 電気室照明トランスの適正化、本事務所単相負荷の適正化を行う。
<p>自動車に係る温室効果ガスの排出の量の削減を達成するための具体的措置</p> <p>(第 3 号該当者等)</p>	

(2) 再生可能エネルギー源等の利用計画及び前年度末における利用実績

ア 再生可能エネルギー源等の利用に係る考え方

再生可能エネルギー源の利用は温室効果ガス排出量の削減に有効な手段と考えていますが、現在、当事業所においては、利用可能な再生可能エネルギー源はないものと捉えています。

イ 再生可能エネルギー源等の利用計画及び利用実績

設備等の種類	概要(規模、導入場所、性能等)	導入年度	備考

ウ 再生可能エネルギー源等の価値の保有計画及び保有実績

種類	概要(規模、場所等)	保有年度	備考

(3) 基準年度の末日までに完了した主な対策内容

温室効果ガスの削減については、基準年度以前から積極的な取り組みを行っている。具体的には、これまで次のような取組を実施してきている。

- ・KF-5プラント 塔(T-1722)への蒸気供給量を見直し、蒸気使用量の削減を実施した。(2006年度)
- ・第三工場の排水蒸留塔の蒸気使用量を見直し、蒸気使用量の削減を実施した。(2008年度)
- ・新設プラント建設時における槽の温度制御方式において、蒸気と電気ヒーターを併用した温水加熱方式を採用し、蒸気量、電力量の削減を達成した。(2006年度 RP-1プラント、2008年度 RP-2プラント)
- ・KF-5プラントにおいて、蒸気のドレンを回収し、ドラムでフラッシュすることにより蒸気を再利用し、蒸気使用量の削減を実施した。(2003年度)

6 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

なし

7 その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

1. 環境教育の実施
2. 省エネルギー講習会、展示会への参加を行う。
3. 従業員の通勤に公共交通機関の利用の推進
(通勤における温室効果ガス排出量の削減)

8 前年度の温室効果ガスの排出の量等の実績

(1) 事業者単位

ア 第 1 号、第 2 号、第 4 号該当者等

(実)	17,226	t-CO ₂
(調)	15,351	

イ 第 3 号該当者等

(実)		t-CO ₂
(調)		

(2) 事業所等単位 (第 1 号、第 2 号該当者等)

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500k_l 以上の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
川崎工場	川崎市川崎区浮島町10番2号	1639	その他の有機化学品の製造業	17,226 t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 以上 1,500k_l 未満の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

ウ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500k_l 未満の事業所の一覧

エネルギー使用量の規模	事業所数
400~500k _l 未満	
300~400k _l 未満	
200~300k _l 未満	
100~200k _l 未満	
100k _l 未満	

(3) 事業所等単位 (第 4 号該当者等)

ア 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 以上 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の一覧

事業所の名称	事業所の所在地	日本標準産業分類 細分類番号	事業所に係る 事業の名称	温室効果ガス の排出の量
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂
				t-CO ₂

イ 物質ごとの年間の温室効果ガスの排出の量 (二酸化炭素換算) が 3,000 t 未満 (二酸化炭素の場合はエネルギー使用に伴い排出したものを除く。) の事業所の数

事業所数	
------	--